



山形大学 (山形県)



言葉の世界を探検し、日常会話から古典文学作品まで学んでみませんか？

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、7研究科、1教育機構から成る。教員約850人、総学生数約9,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

② 国際交流の実績 (2019年10月1日現在)

海外機関との交流協定数：40カ国・地域191機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2019年：留学生数274人、日研生1人
2018年：留学生数251人、日研生2人
2017年：留学生数240人、日研生4人

④ 地域の特色

山形県は、四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な基礎となる言語能力を伸ばすよう授業が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。口頭発表をし、修了論文を書くことのできる日本語力をつけることを達成目標としている。

③ 受入定員

4名 (大使館推薦2名、大学推薦2名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。

⑤ 達成目標

生きた日本語が使われている環境で、山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。また、専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。同時に、自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することにより、その運用力を身につける。

⑥ 研修期間

2020年10月1日～2021年9月30日

宿舎には2020年9月下旬に入居できる。

修了証授与は2021年9月。

⑦ 奨学金支給期間

2020年10月 ～ 2021年9月



⑧ 研修・年間スケジュール・

日本の家庭訪問やホームステイ、日帰り旅行、見学旅行、地元の祭り(例:花笠祭り)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

9月下旬 渡日

9月 芋煮会

10月 留学生研修旅行

11月 留学生懇談会

1月 多文化交流コンサート/スピーチコンテスト

4月 お花見

8月 留学生日本語発表会

花笠祭り

9月 帰国

⑨ コースの修了要件

コース概要⑩の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は前期・後期各15週開講される。授業にはⅠ、Ⅱ、Ⅲの三種がある。Ⅰは留学生向け日本語科目で、Ⅱ、Ⅲは日本人学生とともに学ぶ科目である。

このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要である。そのうち6科目以上は、Ⅰ、Ⅱの分野から選択するものとする。

2) 必須科目

Ⅰの分野の研究プロジェクトを必修とする。

2) 選択科目

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各科目は、Ⅰの研究プロジェクト以外、すべて選択科目である。※〔前期〕：4～8月開講科目〔後期〕：10～2月開講科目

3) 見学、地域交流等の参加型科目

Ⅱの科目では、地域の人々と交流する。

4) 日本人学生との共修等の機会

Ⅱ（日本文化入門以外）およびⅢの各科目では日本人学生とともに学ぶ。

I 日本語科目

a. 基盤教育日本語科目

日本語中級1「総合」（北川絹代・鈴木寛子）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「読む」（内海由美子）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「書く」（薄井宏美）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級2「総合」（菅原和夫・北川絹代）中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「読む」（森秀明）中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「書く」（内海由美子）中級後半〔前期・後期〕

漢字4（横沢由実）中級漢字〔前期・後期〕

日本語上級1「読む」（未定）上級前半一般書の抜粋や新聞記事から情報を読み取り、自国と他国との比較対照を行う。〔前期・後期〕

日本語上級1「話す」（内海由美子）上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「書く」（未定）上級前半：日本語でレポート・論文などの学術的文章を書くのに必要な、基礎的な力を養う。〔前期・後期〕

日本語上級1「聞く」（内海由美子）上級前半〔前期・後期〕

日本語上級2「読む」（薄井宏美）上級後半：文法の復習や読解を行う。〔前期・後期〕

日本語上級2「話す」（菅原和夫）上級後半：大学生活で必要な聞いたり話したりする力を伸ばすことを目標とする。〔前期・後期〕

日本語上級2「書く」（渡辺文生・内海由美子）上級後半：大学の授業を受講する上で必要となる日本語力の向上を目指す。特に大学の学習・研究活動に必要とされる「書く力」の養成を目指して練習を行う。〔前期・後期〕

研究プロジェクトⅠ：〔後期〕

研究プロジェクトⅡ：〔前期〕

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

b. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語 a & b（中澤信幸・渡辺文生）

N1対策・スピーチ〔前期〕、読解・聴解・作文〔後期〕

日本語コース授業時間数

・日本語中級1・2：各学期 210時間

・日本語上級1：各学期 120時間

・日本語上級2：各学期 90時間

・研究プロジェクトⅠ・Ⅱ 各学期 30時間

・日本語（一）（二）各学期 30時間

Ⅱ 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門（尤 銘煌）

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。〔前期・後期〕

多文化交流（ラインホルト・グリンダ）

ドイツ、ドイツ語圏と日本・文化と楽しみー20世紀を中心にして〔後期〕

フィールドワークー共生の森もがみ〔前期〕

フィールドラーニングー共生の森もがみ〔後期〕

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

異文化理解演習（尤 銘煌）

通過儀礼を通して日本文化・社会及び台湾文化・社会を理解するようになる。そして、異なる文化的な背景を持つ者（日本人学生、留学生）同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。〔前期〕



Ⅲ 人文・社会科学科目

a. 人文社会科学部開講科目

日本語学特殊講義 a（中澤信幸）

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。〔後期〕

日本語学概論（中澤信幸）

日本語の歴史について解説する。〔前期〕

日本語文法概論（渡辺文生）

現代日本語の記述的文法を解説する。〔後期〕

日本語文法特殊講義 a（渡辺文生）

現代日本語の語用論的な研究について解説する。〔前期〕

日本語学演習 a（中澤信幸）

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。〔前期〕

日本語教育学概論（未定）

学習者の文法上の問題を通して日本語を分析する。〔前期〕

日本語教育学基礎演習 a（内海由美子）

教科書を分析し、学習項目の洗い出しと重み付け、到達目標の検討を行う。〔前期〕

日本語教育学特殊講義 a（未定）

典型的な日本語初級の授業の流れを理解し、教室活動をデザインする。模擬授業を行い互いに評価・分析する。〔後期〕

映像学概論 (大久保清朗)

映画の分析論。日本映画の分析を含む。〔前期〕

日本古代中世文学特殊講義 a (未定)

主に室町期から近世初期までの物語・説話などを読む。
〔後期〕

日本近現代文学特殊講義 a (森岡卓司)

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。
〔後期〕

地誌学 (山田浩久)

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。〔後期〕

比較文化・文化交流史概論 (伊藤豊)

近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。〔後期〕

日本経済史 (岩田浩太郎)

鎌倉時代から明治時代の経済史を講じ、日本社会の特質をあきらかにする。〔前期・後期〕

b. 地域教育文化学部開講科目

国語学概論 I (未定)

音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。〔前期〕

国語学概論 II (未定)

文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。〔後期〕

c. 基盤共通教育開講科目

日本外交史 (松本邦彦)

明治以降の日本外交史を映像資料、文献資料をもとに概観し現代の視点で追体験してゆくことで、今後の日本の外交政策を考えて行く上で必要な歴史知識を得よう。〔前期・後期〕

① 指導体制

1) プログラム実施責任教員:

内海由美子

学士課程基盤教育機構教授 日本語教育

2) 協力教員:

尤銘煌 学士課程基盤教育機構教授 社会学

3) 指導教員

人文社会科学部、地域教育文化学部、または学士課程基盤教育機構教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部に所属する。

■ 宿 舎

短期留学生は80名まで山形大学国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。(例: 香澄町国際交流会館)

1) 宿舎費(1ヶ月) + 共益費(1ヶ月) + 保証積立金

- ・ 単身室 5,900円 + 4,000円 + 30,000円
- ・ 夫婦室 11,900円 + 4,000円 + 36,000円
- ・ 家族室 14,200円 + 4,000円 + 45,000円

2) 宿舎設備・備品(単身室の場合)

ベッド、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ

留学生受入状況等により、宿舎の用意が出来ない場合がある。大学近くのアパートの場合、家具・食事付きの部屋で50,000円~65,000円、家具なし・風呂トイレ付きの部屋で30,000円~50,000円、家具なし・風呂トイレ共同で15,000円~30,000円ぐらいである。さらに、入居のときに、敷金として1~2ヵ月分の家賃程度の金額を支払う必要がある。



先輩日研究生が講演に来訪



南京玉すだれ (多文化交流コンサート)

■ 修了生へのフォローアップ

これまで12年間の修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本から母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げている。2012年には翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。現在通訳としても活躍している。シンガポールの大学を卒業後、日本JTで働く経験を積んだ修了生は、2014年、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。



花笠祭り

■ 問合せ先

<担当部署>

山形大学教育・学生支援部国際交流課国際交流室

住所: 〒990-8560

山形県山形市小白川町1-4-12

TEL: +81-23-628-4017 (直通)

FAX: +81-23-628-4491

Email: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

山形大学:

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/>